

千葉県における自殺の統計【令和 6 年度版（令和 5 年統計データより）】

令和 7 年 3 月 3 日

千葉県衛生研究所

I はじめに

千葉県における自殺の統計は、「第 2 次千葉県自殺対策推進計画」に基づき、毎年作成しているところです。

このたび、自殺関連統計資料をまとめ、令和 6 年度版（令和 5 年統計データより）を作成しましたので報告します。

自殺対策に従事されている皆様はもとより、県民の方々にも御覧いただき、自殺対策のために御活用いただければ幸いです。

II 方法

千葉県の自殺の現状とその関連要因の把握のため、既存の統計資料を用いてデータの整理を行なうとともに、保健所（健康福祉センター）・市町村別の自殺死亡率、標準化死亡比を算出した。

1 用いた統計資料

(1) 厚生労働省「人口動態調査」

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450011&tstat=000001028897>

(2024/11/21 確認)

(2) 千葉県健康福祉部健康福祉指導課「千葉県衛生統計年報 index」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenshidou/toukeidata/kakushukousei/eisei/index.html>

(2025/2/28 確認)

(3) 総務省統計局「人口推計」

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200524&tstat=000000090001>

(2024/11/21 確認)

(4) 千葉県総合企画部統計課「千葉県年齢別・町丁字別人口」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenreibetsu/index.html> (2024/11/21 確認)

(5) 厚生労働省自殺対策推進室「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000140901.html> (2024/11/21 確認)

(6) 厚生労働省「人口動態統計に基づく自殺死亡数及び自殺死亡率」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jinkou-doutai-jisatsusyasu.html (2024/11/21 確認)

(7) 警察庁「自殺者数」

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/jisatsu.html> (2024/11/21 確認)

(8) 千葉県警察本部生活安全部「自殺統計原票データ」（県内で発見され、警察の捜査に基づき、死亡原因が自殺と判断されたもの）※千葉県警察本部から受領

(9) 厚生労働省「自殺対策白書」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jisatsuhakusyo.html (2024/11/22 確認)

(10) 総務省統計局「労働力調査」＜参考＞「労働力調査（基本集計）都道府県別結果」

<https://www.stat.go.jp/data/roudou/pref/index.html> (2024/11/22 確認)

(11) 千葉県精神保健福祉センター「精神保健福祉センター年報」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/cmhc/nenpou/index.html> (2025/2/27 確認)

(12) 社会福祉法人千葉いのちの電話「事業報告」

事業案内 2023 (令和 5) 年度事業報告 2024 (令和 6) 年度事業計画 (2024/7/1 発行)

(13) 千葉県防災危機管理部消防課「消防防災年報」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shoubou/nenpou/index.html> (2024/11/22 確認)

(14) 文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400304> (2024/11/22 確認)

(15) 文部科学省「学校基本調査」

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>

(2024/11/22 確認)

(16) 厚生労働省「福祉行政報告例」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/38-1.html> (2024/11/22 確認)

【参考】厚生労働省の「人口動態統計」と警察庁の「自殺統計」の違い

1 日本における外国人の取扱いの差異

自殺統計 (警察庁) : 日本における日本人及び外国人の自殺者数

人口動態統計 (厚生労働省) : 日本における日本人のみの自殺者数

2 調査時点の差異

自殺統計 (警察庁) : 捜査等により、自殺であると判明した時点で自殺統計原票を作成し、計上

人口動態統計 (厚生労働省) : 自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは原因不明の死亡等で処理しており、後日原因が判明し、死亡診断書等の作成者から自殺の旨訂正報告があった場合には、遡って自殺に計上

3 計上地点の差異

自殺統計 (警察庁) : 発見地に計上

人口動態統計 (厚生労働省) : 住所地に計上

厚生労働省「令和 5 年版 自殺対策白書」15 ページから改編

→ 千葉県警察本部から提供を受けた自殺統計原票データは、「県内で発見」された住居地が県外の者を含み、「県外で発見」された住居地が千葉県の者を含まない。

なお、厚生労働省自殺対策推進室が公表している「地域における自殺の基礎資料」は、厚生労働省自殺対策推進室が、警察庁から提供を受けた自殺データに基づき、全国・都道府県別・市区町村別自殺者数について再集計したものであり、発見日・発見地で集計したデータのほか、自殺日や住居地で集計したデータがある。本書ではこちらも以下「自殺統計」という。

2 年齢調整死亡率・標準化死亡比（SMR）の算出

人口規模の小さい地域において、人口や自殺者数の変動の影響を受けやすいため、保健所管内別、市町村別の年齢調整死亡率及び標準化死亡比（SMR）の算出では、人口及び自殺者数ともに令和元年から令和5年までの5年分の合計数を用いて算出した。SMR算出の基準人口集団の年齢階級別死亡率は、当該年分（5年分）の全国人口値を用いた。さらに、自殺者数の少なさに起因する死亡率の変動の影響を抑え、より安定性の高い地域間の比較を可能とするため、標準化死亡比の経験的ベイズ推定値（EBSMR）を算出した。

*1 自殺死亡率 人口10万人当たりの自殺者数

$$\text{自殺死亡率} = \frac{\text{ある期間の死亡数}}{\text{同じ期間の人口}} \times 100,000$$

*2 年齢調整死亡率 年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率などについて、その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いる。基準人口には「平成27年モデル人口」を用いている。

$$\text{年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} \text{観察集団の} \\ \text{各年齢階級の死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{基準人口のその} \\ \text{年齢階級の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢階級の総和}}{\text{基準人口の総数}} \times 100,000$$

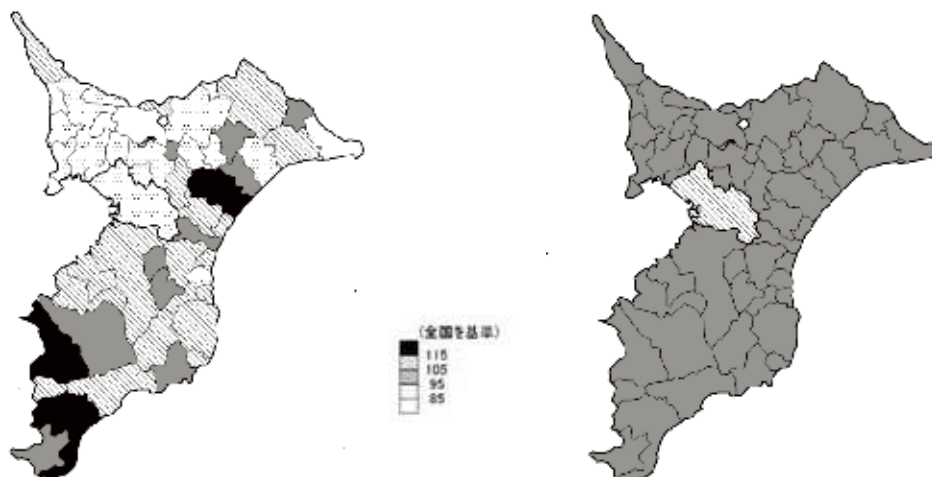
*3 標準化死亡比（SMR） 年齢構成の差異を基準の死亡率で調整した値（期待死亡数）に対する現実の死亡数の比のこと。主に小規模人口の地域の比較に用いる。ここでは基準集団を国としている。

$$\text{標準化死亡比 (SMR)} = \frac{\text{観察集団の死亡数}}{\left\{ \begin{array}{l} \text{基準集団の} \\ \text{各年齢階級の死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{観察集団のその} \\ \text{年齢階級の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢階級の総和}} \times 100$$

全国を基準（SMR = 100）とした場合に、その地域での年齢を調整した上での死亡率がどの程度高い（低い）のかを表現する指標であり、例えば、SMR = 120 ならば、全国（100）に比べてその地域での死亡率は1.2倍であり、SMR = 80 ならば死亡率は0.8倍であることを意味する。

*4 標準化死亡比の経験的ベイズ推定値（EBSMR） 標準化死亡比について、自殺者数の少なさに起因する死亡率の変動の影響を抑え、より安定性の高い地域間の比較を可能とした指標。国立保健医療科学院ホームページで公開されていた「EB estimator for Poisson-Gamma model [Version2.1]」を使用して算出した。

【参考】令和元年～令和5年合計の市町村別自殺の標準化死亡比の経験的ベイズ推定値（EBSMR）



EBSMR（男性）

EBSMR（女性）

Ⅲ 自殺の現状

1 自殺者数の推移

千葉県自殺者数は、平成 10 年に前年から 299 人増加して 1,223 人となり、平成 23 年に平成 6 年以降最多の 1,370 人となった。平成 24 年以降は減少傾向を示し、平成 28 年以降は 1,000 人前後で推移している。令和元年から令和 5 年までの 5 年間では、総数は 978～1,050 人と 1,000 人前後を推移した。男女別に見ると、男性が令和元年からの 3 年間に 690 人から 623 人に減少し続けたが、令和 4 年が 681 人、令和 5 年が 686 人と増加した。女性は令和元年が 293 人、令和 2 年が 381 人と増加し、令和 3 年が 355 人、令和 4 年が 340 人と減少し、令和 5 年 340 人と横ばいになった（図 1）。（参照：Ⅳ統計表（資料編） 附表 2）

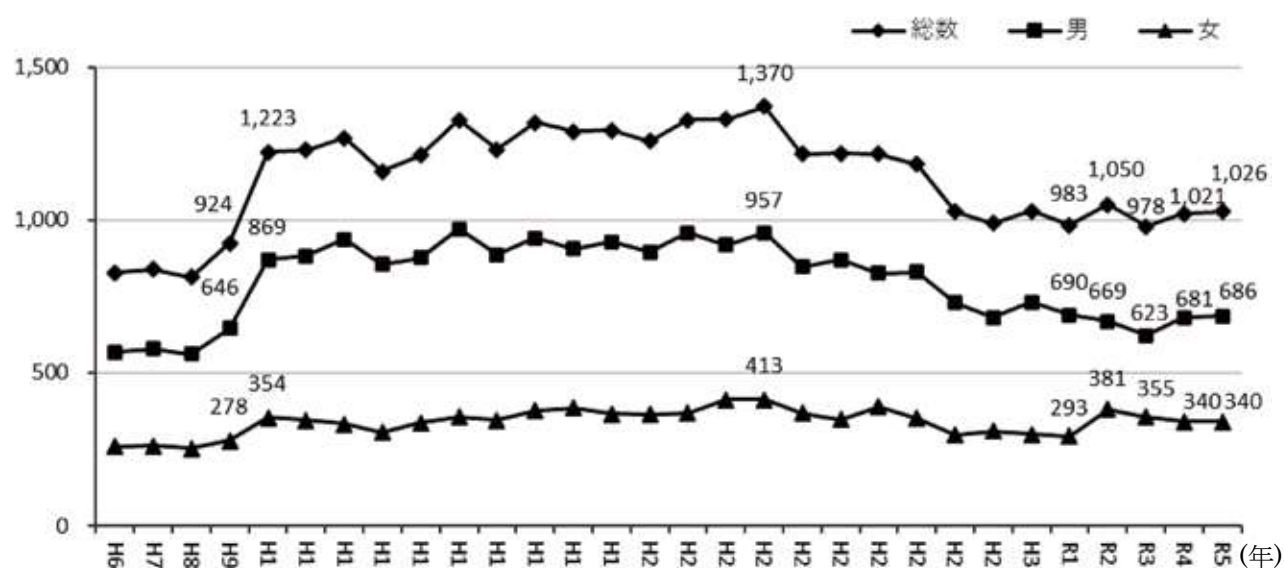


図 1 自殺者数の年次推移（千葉県）

出典：人口動態調査

2 自殺死亡率の推移

千葉県の人10万人当たりの自殺者数（以下「自殺死亡率」という。）は、平成10年に前年の15.9から21.0に増加し、平成15年及び23年の22.3をピークとして高い水準が続いた後、平成24年以降は減少傾向を示した。令和元年から令和5年までの5年間では、総数は16.0から17.2の間で推移した。男女別に見ると、男性が22.6から20.5と3年間減少し続けたが、令和4年に22.5、令和5年に22.8と増加になった。女性は令和2年が前年の9.5から12.4に増加し、令和3年が11.5、令和4年が11.1と減少し、令和5年が11.1と横ばいになった。

一方全国の令和元年から令和5年までの5年間の自殺死亡率は、男性が令和元年22.7から令和2年22.6と減少し、令和3年22.6と横ばいになり、令和4年24.2、令和5年24.4と増加した。女性が令和元年9.1から令和4年11.0と4年間連続増加し、令和5年10.7と減少した（図2）。（参照：IV統計表（資料編） 附表3）

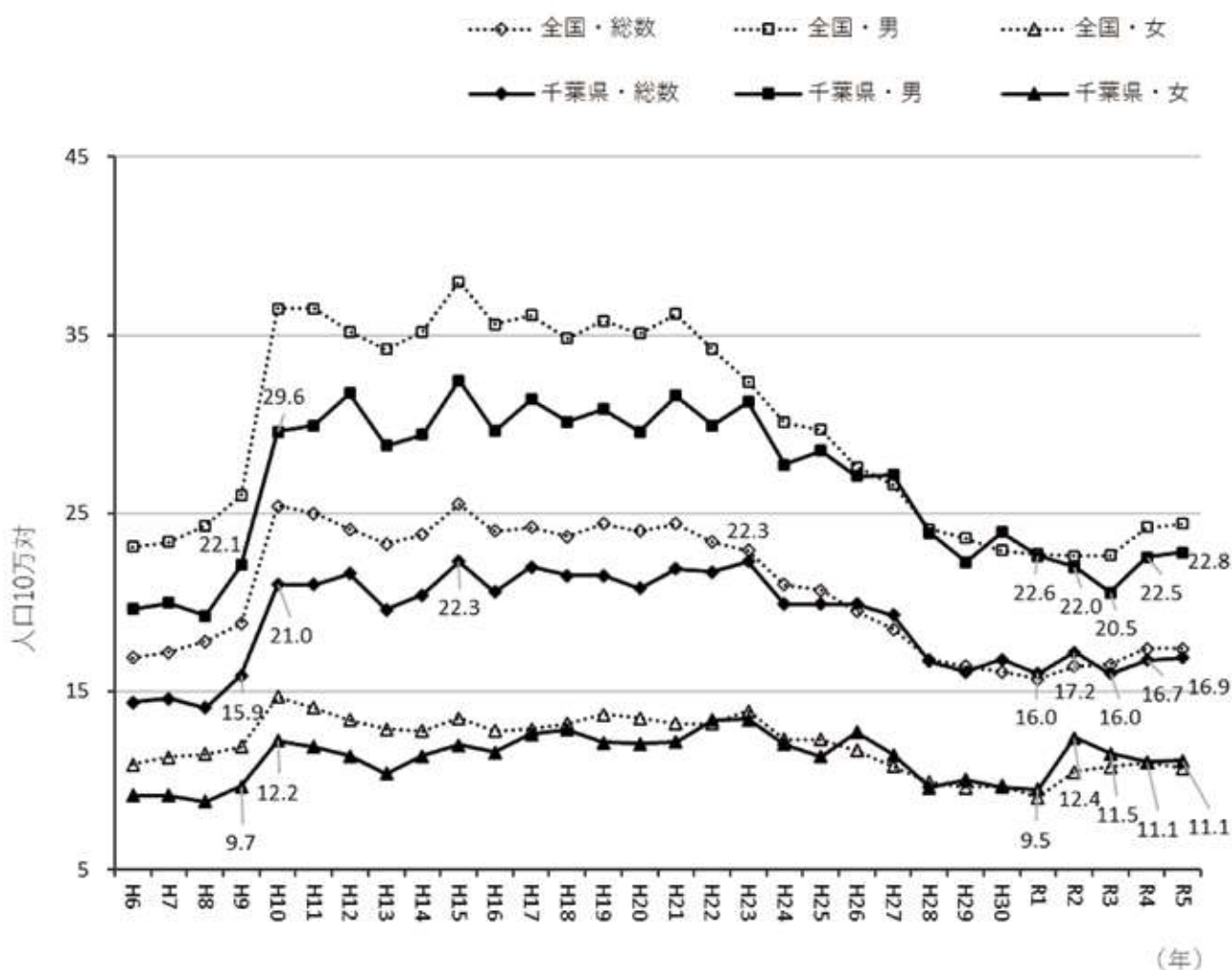


図2 自殺死亡率の年次推移（千葉県・全国） 出典：人口動態調査、人口推計

3 性・年齢階級別の状況

令和元年から令和5年までの5年間の千葉県の性・年齢階級別の自殺死亡率の変化を見ると、令和4年から令和5年にかけて増加した男性の年齢階級は、「30～39歳」、「50～59歳」、「60～69歳」、「70～79歳」だった。また、増加した女性の年齢階級は、「10～19歳」、「20～29歳」、「40～49歳」、「50～59歳」だった（図3）。（参照：IV統計表（資料編） 附表2、21）

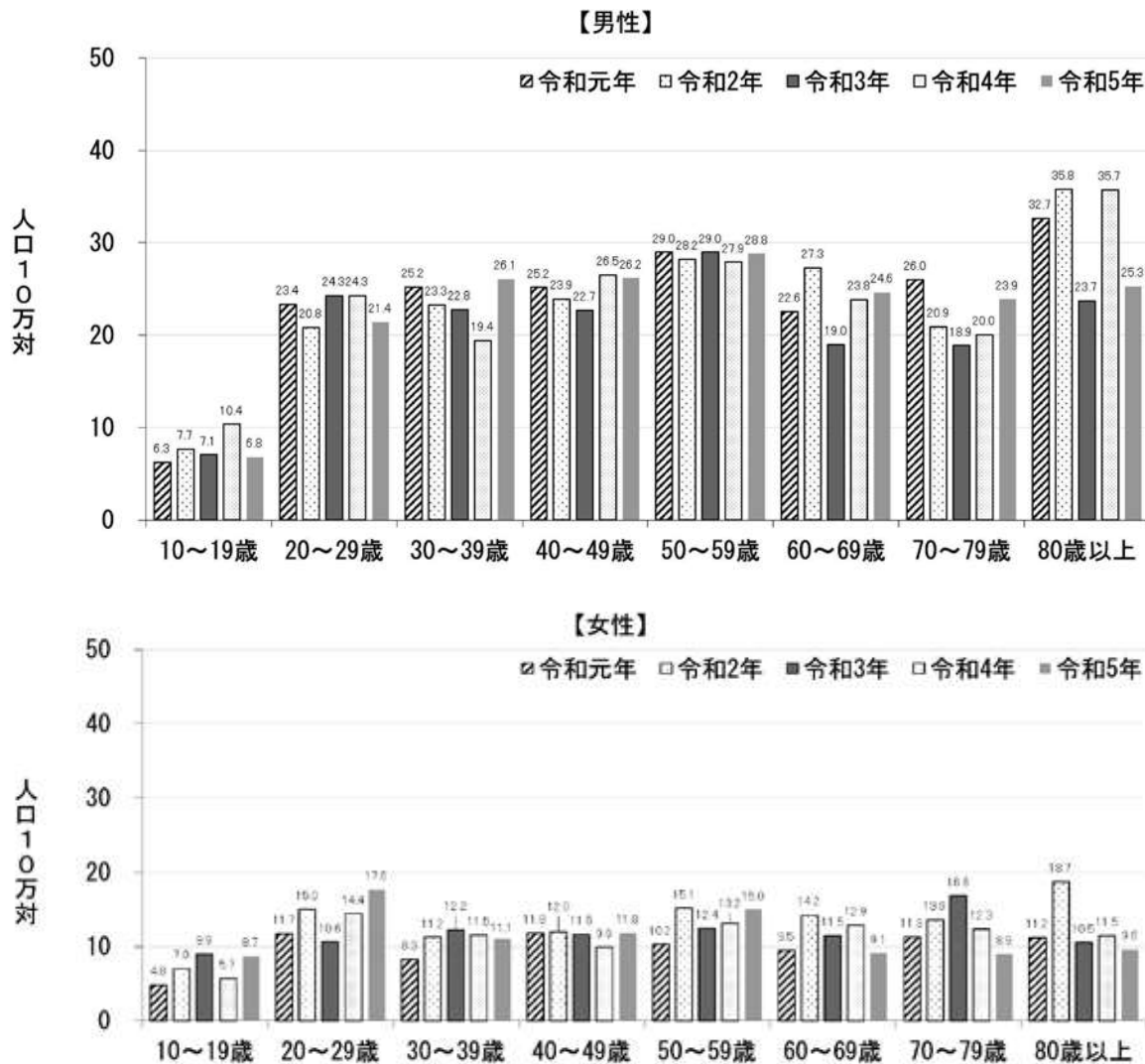


図3 性・年齢階級別自殺死亡率の年次推移（千葉県）

出典：自殺者数；人口動態調査、人口；千葉県年齢別・町丁字別人口

千葉県の若者・働き盛りの世代の自殺の令和5年の死因順位は、男性は「15～19歳」から「40～44歳」まで、女性は「10～14歳」から「30～34歳」までの年齢階級で死因の1位だった（表1）。（参照：IV統計表（資料編） 附表5）

表1 性・年齢階級別若者・働き盛りの自殺の死因順位（千葉県）

	年齢階級	10 - 14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64
総数	令和5年	2	1	1	1	1	1	2	2	3	4	5
	令和4年	1	1	1	1	1	1	2	3	4	4	4
男	令和5年	3	1	1	1	1	1	1	3	3	5	5
	令和4年	1	1	1	1	1	1	1	3	3	5	5
女	令和5年	1	1	1	1	1	2	2	2	3	4	4
	令和4年	1	1	1	1	1	2	2	2	4	4	4

注）10歳未満は自殺者なしのため省略

出典：人口動態調査

4 原因・動機別の状況

令和 5 年の千葉県及び全国の自殺の原因・動機特定者に占める各原因・動機の件数の割合は千葉県及び全国とも「健康問題」が最も高く、千葉県が 65.6%、全国が 63.8%であった。次いで千葉県は「経済・生活問題」が 25.8%、「家庭問題」が 25.6%、全国は「経済・生活問題」が 26.6%、「家庭問題」が 24.2%であった。参考に平成 29 年～令和 3 年の千葉県及び全国の自殺の原因・動機特定者に占める各原因・動機の件数の割合は千葉県及び全国ともに全ての年において「健康問題」が最も高かった（図 4）。（参照：IV 統計表（資料編） 附表 14）

なお、令和 3 年以前では原因・動機を自殺者一人につき 3 つまで計上可能としていたが、令和 4 年から遺書等の自殺を裏付ける資料に加え家族の証言等により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき 4 つまで計上可能となったため、平成 29 年～令和 3 年と令和 4 年～令和 5 年と単純に比較することはできない。

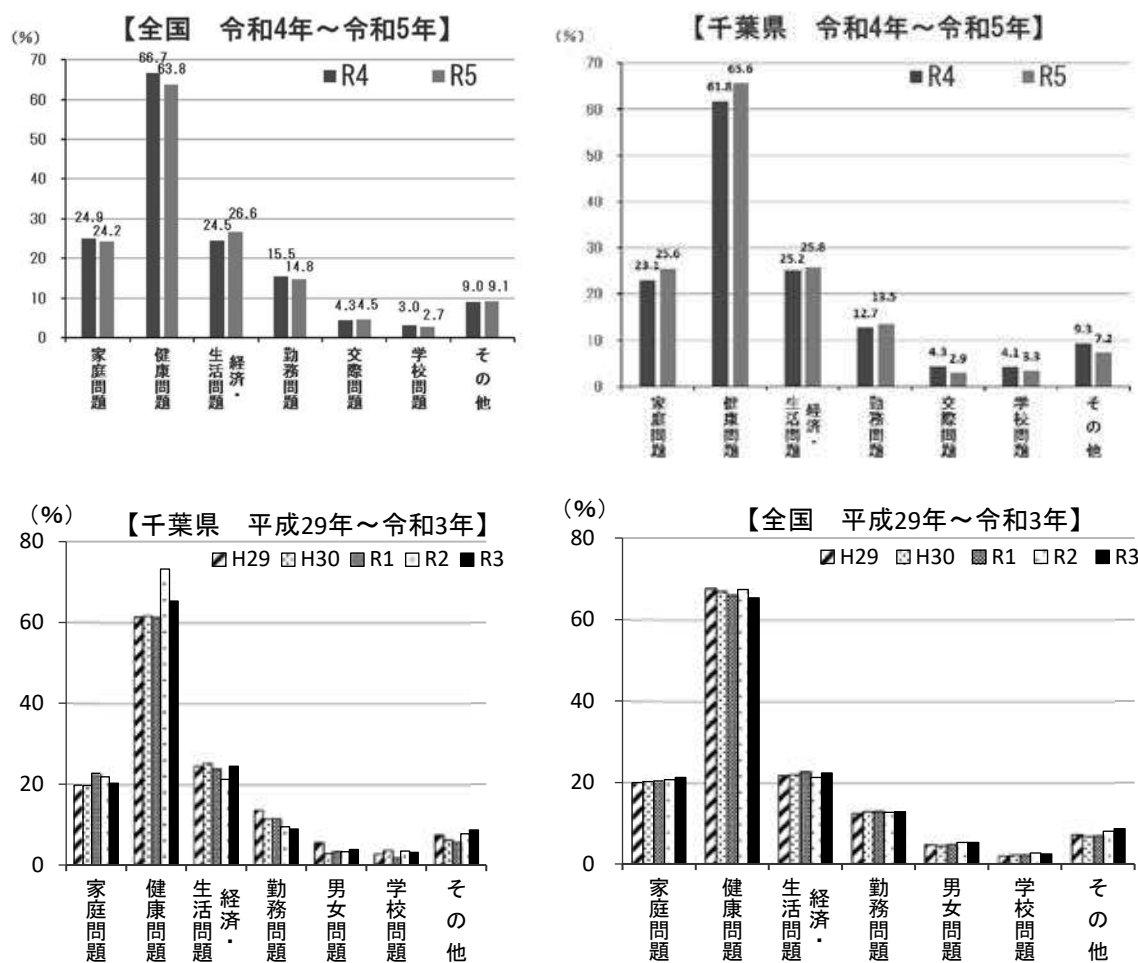


図 4 自殺の原因・動機特定者に占める各原因・動機の件数の割合（千葉県・全国）

注 1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注 2) 令和 4 年から遺書等の自殺を裏付ける資料に加え家族の証言等により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき 4 つまで計上可能としている。

注 3) 千葉県の自殺者：「県内で発見」された住居地が県外の者を含み、「県外で発見」された住居地が県内の者を含まない。

注 4) 令和 4 年に自殺統計原票が改正され、原因・動機分類の「男女問題」が「交際問題」に変更になった。

出典：自殺統計：地域における自殺の基礎資料

5 原因・動機の詳細の状況

(1) 男女別の状況

令和4年から5年に千葉県で発見された自殺者1,969人のうち、原因及び動機を特定できた1,942人（男性1,287人、女性655人）の各原因及び動機が該当する割合は、男女とも「健康問題」が最も高く、男性は48.3%、女性は72.1%であった。次いで男性は「経済・生活問題」が27.3%、「家庭問題」が18.8%、女性は「家庭問題」が25.3%、「その他」が7.2%であった（図5）。

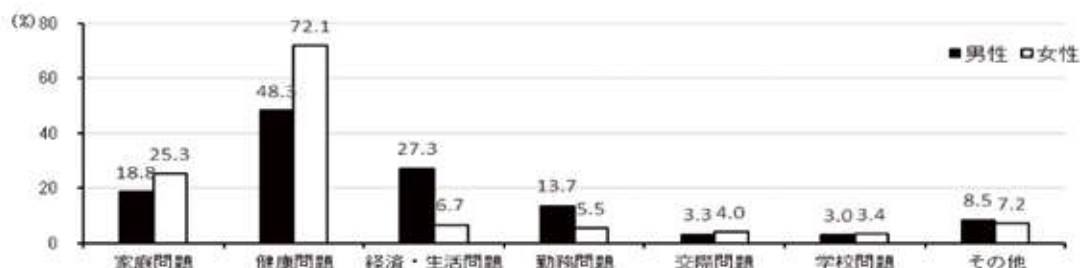


図5 原因・動機特定者に占める各原因・動機の該当者数の割合：令和4～5年（千葉県）

注1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注2) 令和4年から遺書等の自殺を裏付ける資料に加え家族の証言等により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき4つまで計上可能としている。

出典：自殺統計原票データ

(2) 原因・動機の小分類の内容

令和4年から5年に千葉県で発見された自殺者1,969人のうち、原因及び動機を特定できた1,942人（男性1,287人、女性655人）の性別の各原因及び動機の小分類（p.22【参考】原因・動機の小分類一覧 1 令和4年以降の原票）別の割合は、男女とも1位は「病気の悩み・影響（うつ病）」で男性が15.9%、女性が33.3%、男女とも2位は「病気の悩み（その他の身体疾患）」で男性が14.9%、女性が16.0%、3位は男性が「生活苦」で14.8%、女性が「病気の悩み・影響（その他の精神疾患）」で15.0%だった（図6）。（参照：IV統計表（資料編） 附表15）

年齢階級別のそれぞれの1位は、19歳以下は男女とも「学業不振」で男性が20.8%、女性が20.6%、20～29歳は男性が「病気の悩み・影響（その他の精神疾患）」で14.5%、女性が「病気の悩み・影響（うつ病）」で27.8%、30～39歳は男性が「生活苦」で19.0%、女性が「病気の悩み・影響（うつ病）」で32.9%、40～49歳は男性が「生活苦」で18.1%、女性が「病気の悩み・影響（うつ病）」で38.8%、50～59歳は男女とも「病気の悩み・影響（うつ病）」で男性が23.7%、女性が41.2%、60～69歳は男性が「病気の悩み（その他の身体疾患）」で22.8%、女性が「病気の悩み・影響（うつ病）」で40.0%、70～79歳は男性が「病気の悩み（その他の身体疾患）」で37.0%、女性が「病気の悩み・影響（うつ病）」で34.8%、80歳以上は男女とも「病気の悩み（その他の身体疾患）」で男性が39.3%、女性が43.5%だった（表2）。（参照：IV統計表（資料編） 附表16）

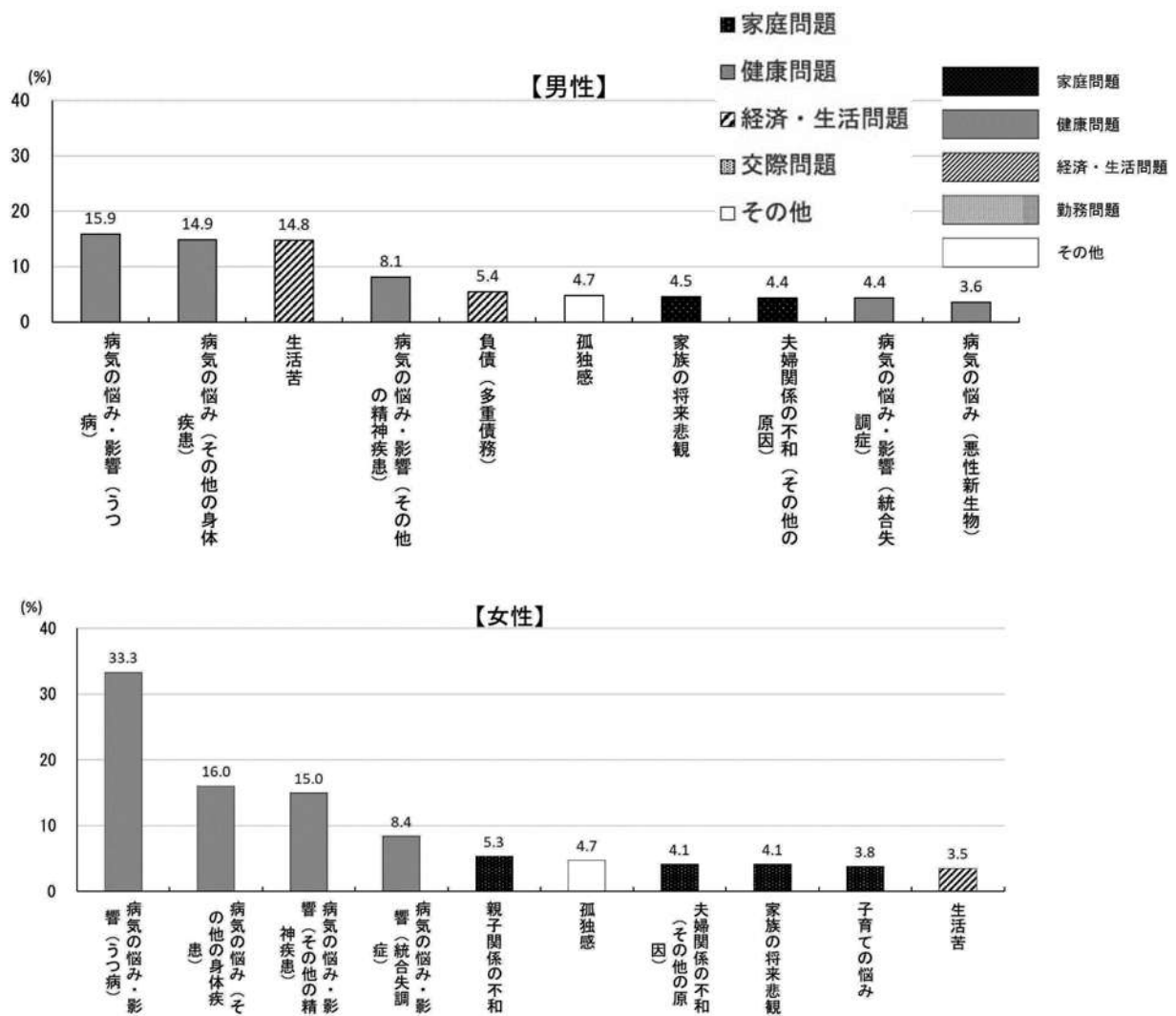


図6 原因・動機（小分類）の計上割合（上位10位）：令和4～5年（千葉県）

注1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注2) 令和4年から遺書等の自殺を裏付ける資料に加え家族の証言等により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき4つまで計上可能としている。

出典：自殺統計原票データ

6 市町村別の状況

(1) 原因・動機別の状況

令和4年から5年に千葉県で発見された自殺者1,969人のうち、生前の住居地が県内市町村であった者は1,897人、県外59人、不詳13人であった。1,897人の原因・動機は、51市町村で「健康問題」が最も多かった（表3）。

(2) 自殺の場所別の状況

令和4年から5年に千葉県で発見された自殺者1,969人の自殺場所別の構成割合は、「自宅等」66.0%（1,300人）が最も多く、次いで「その他」20.1%（395人）、「乗物」4.9%（97人）であった（図7）。

住居地外自殺者（生前の住居地が不詳の者を除き、生前の住居地と発見市町村が異なる者）は208人であり、自殺の場所は「その他」113人が最も多く、次いで「乗物」44人、「海（湖）・河川等」27人であった（表4）。

表2 年齢階級別の原因・動機（小分類）の計上割合（上位5位）：令和4～5年（千葉県）

年齢階級	男		女	
	原因・動機	割合（％）	原因・動機	割合（％）
19歳以下	学業不振	20.8	学業不振	20.6
	進路に関する悩み（入試以外）	20.8	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	14.7
	入試に関する悩み	12.5	親子関係の不和	11.8
	孤独感	12.5	家族からのしつけ・叱責	11.8
	家族からのしつけ・叱責	8.3	進路に関する悩み（入試以外）	11.8
	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	8.3		
20～29歳	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	14.5	病気の悩み・影響（うつ病）	27.8
	生活苦	10.9	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	15.6
	病気の悩み・影響（うつ病）	10.1	病気の悩み・影響（統合失調症）	11.1
	失恋	10.1	親子関係の不和	10.0
	職場の人間関係（その他）	7.2	失恋	8.9
30～39歳	生活苦	19.0	病気の悩み・影響（うつ病）	32.9
	病気の悩み・影響（うつ病）	15.7	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	19.2
	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	10.5	子育ての悩み	16.4
	負債（多重債務）	6.5	病気の悩み・影響（統合失調症）	12.3
	職場の人間関係（その他）	6.5	夫婦関係の不和（その他の原因）	9.6
40～49歳	生活苦	18.1	病気の悩み・影響（うつ病）	38.8
	病気の悩み・影響（うつ病）	15.5	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	21.4
	負債（多重債務）	10.2	病気の悩み・影響（統合失調症）	16.3
	病気の悩み・影響（統合失調症）	9.7	子育ての悩み	6.1
	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	9.3	夫婦関係の不和（その他の原因）	5.1
50～59歳			親子関係の不和	5.1
	病気の悩み・影響（うつ病）	23.7	病気の悩み・影響（うつ病）	41.2
	生活苦	19.3	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	16.8
	病気の悩み（その他の身体疾患）	8.4	病気の悩み・影響（統合失調症）	13.4
	負債（多重債務）	8.4	病気の悩み（その他の身体疾患）	12.6
60～69歳	家族の将来悲観	8.0	親子関係の不和	6.7
			生活苦	6.7
	病気の悩み（その他の身体疾患）	22.8	病気の悩み・影響（うつ病）	40.0
	病気の悩み・影響（うつ病）	17.0	病気の悩み（その他の身体疾患）	26.3
	生活苦	14.0	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	8.8
70～79歳	孤独感	8.2	家族の将来悲観	7.5
	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	6.4	孤独感	7.5
	病気の悩み（その他の身体疾患）	37.0	病気の悩み・影響（うつ病）	34.8
	病気の悩み・影響（うつ病）	15.8	病気の悩み（その他の身体疾患）	30.4
	生活苦	15.2	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	14.1
80歳以上	病気の悩み（悪性新生物）	10.3	家族の死亡	9.8
	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	7.3	介護・看病疲れ	7.6
	病気の悩み（その他の身体疾患）	39.3	病気の悩み（その他の身体疾患）	43.5
	病気の悩み・影響（うつ病）	11.9	病気の悩み・影響（うつ病）	21.7
	認知機能低下の悩み	11.1	認知機能低下の悩み	8.7
	身体障害の悩み	10.4	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	5.8
	病気の悩み（悪性新生物）	7.4	孤独感	5.8

注1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注2) 令和4年から遺書等の自殺を裏付ける資料に加え家族の証言等により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき4つまで計上可能としている。

表3 住居地（市町村）別における自殺の原因・動機特定者数と各原因・動機の該当者数：令和4～5年

市町村名	自殺者総数	原因・動機 特定者数	各原因・動機の該当者数						
			家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他
千葉市	290	285	64	166	56	23	10	12	28
銚子市	4	4	1	3	0	0	0	0	1
市川市	142	141	23	81	29	18	6	4	11
船橋市	177	177	37	104	40	13	8	1	9
館山市	21	21	5	12	2	5	1	0	2
木更津市	55	55	6	29	13	10	5	1	7
松戸市	145	144	22	86	26	16	3	5	9
野田市	49	48	11	21	11	3	0	4	2
茂原市	33	31	9	14	5	2	3	0	2
成田市	40	40	7	23	9	4	4	2	3
佐倉市	56	56	14	33	8	4	3	3	6
東金市	25	24	13	15	6	4	1	2	2
旭市	29	29	11	15	5	1	0	0	0
習志野市	40	40	8	18	15	3	1	1	5
柏市	137	136	30	80	15	9	4	10	10
勝浦市	5	5	3	3	0	0	0	0	0
市原市	83	80	12	44	20	13	3	2	6
流山市	43	40	9	25	6	6	1	1	4
八千代市	63	62	17	30	8	9	0	1	5
我孫子市	30	30	7	18	8	3	3	1	1
鴨川市	13	13	2	6	6	0	1	0	2
鎌ヶ谷市	32	31	6	20	5	2	1	0	2
君津市	31	31	8	15	8	6	1	1	0
富津市	16	16	3	7	5	2	0	0	0
浦安市	35	35	4	23	6	0	0	2	3
四街道市	28	28	9	16	6	3	2	0	2
袖ヶ浦市	28	28	5	14	6	10	1	0	2
八街市	25	25	6	13	4	3	0	2	1
印西市	25	25	7	11	3	5	1	0	1
白井市	17	17	5	8	3	2	1	0	3
富里市	8	8	0	5	2	1	0	0	1
南房総市	15	15	1	13	0	1	0	0	0
匝瑳市	6	6	1	6	0	0	0	0	0
香取市	35	34	7	22	9	2	1	0	0
山武市	24	24	2	9	9	2	0	3	6
いすみ市	12	12	1	11	1	0	0	0	0
大網白里市	11	11	6	7	1	3	1	0	5
酒々井町	6	6	2	2	1	1	0	0	0
栄町	12	12	3	7	3	0	0	0	2
神崎町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多古町	4	4	0	3	1	0	0	0	0
東庄町	2	2	0	1	1	0	0	0	0
九十九里町	6	6	3	5	2	1	0	0	3
芝山町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横芝光町	9	9	2	5	0	1	1	1	1
一宮町	5	5	0	2	1	2	0	0	0
睦沢町	3	3	0	2	0	0	0	1	0
長生村	3	3	1	3	1	0	0	0	0
白子町	5	5	1	2	2	1	1	0	0
長柄町	2	2	2	2	1	0	0	0	0
長南町	3	3	0	3	0	0	0	0	1
大多喜町	4	4	0	3	0	1	0	0	0
御宿町	2	2	2	0	1	1	0	0	1
鋸南町	3	3	1	2	2	0	0	0	1
千葉県	1897	1876	399	1068	372	196	68	60	150

注1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注2) 令和4年から遺書等の自殺を裏付ける資料に加え家族の証言等により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき4つまで計上可能としているため、原因・動機特定者数と各原因・動機の該当者数の合計は一致しない。

注3) 各原因・動機の該当者数の中で市町村別に最も多い項目を網掛けした。

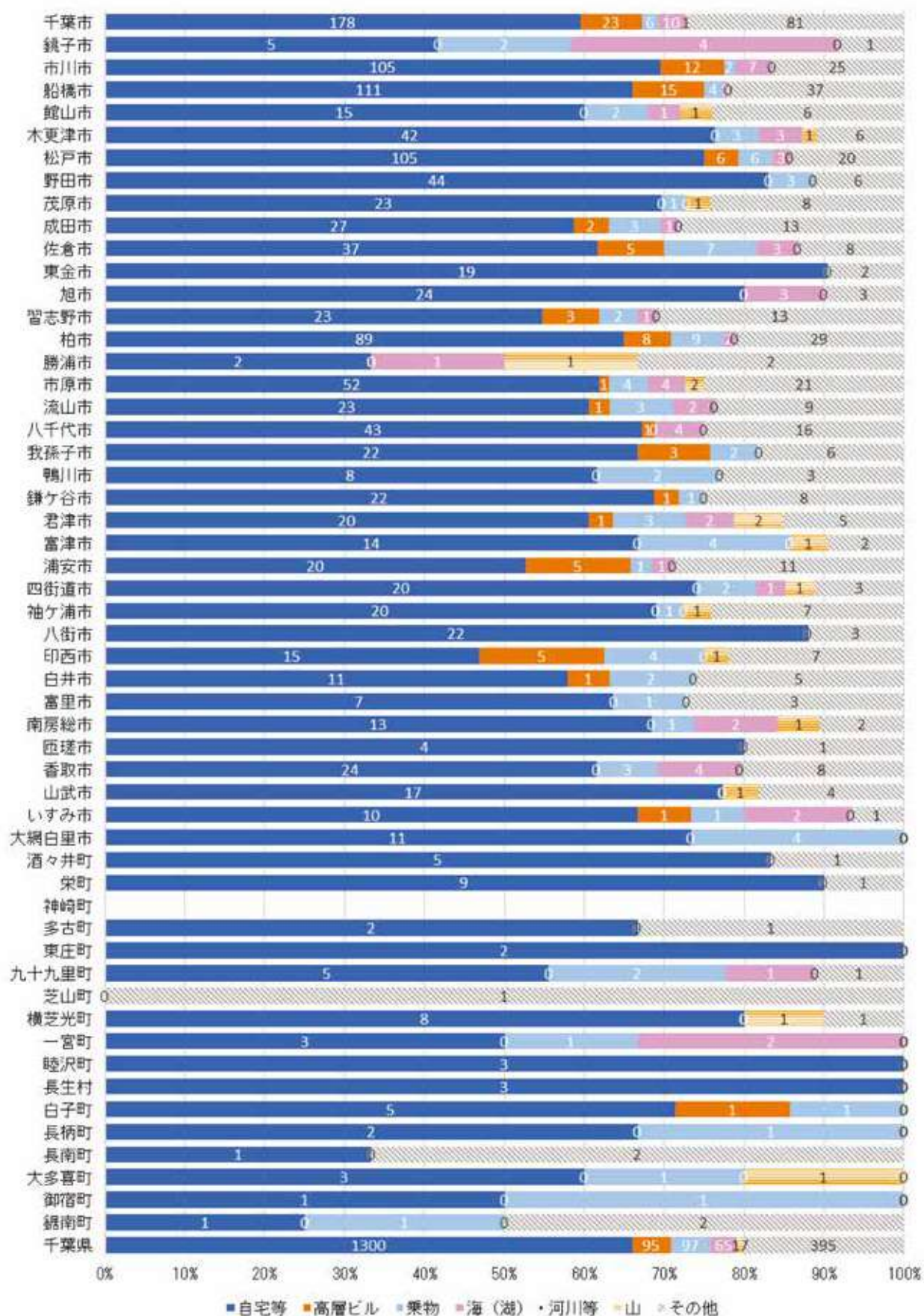


図7 発見地（市町村）別における自殺の場所別の構成：令和4～5年

注1) 令和4年に自殺統計原票が改正され、自殺の場所の選択肢が拡充された。

注2) 図の棒上の数字は自殺者数である。

表 4 発見地（市町村）別における住居地外自殺者の自殺の場所別人数：令和 4～5 年

市町村名	自殺者 総数	住居地外 自殺者数	住居地外 自殺者の 割合 (%)	住居地外自殺者の自殺の場所別人数				
				高層ビル	乗物	海（湖）・河川 等	山	その他
千葉市	299	18	6.0%	2	1	4	1	10
銚子市	12	8	66.7%	0	2	4	0	2
市川市	151	17	11.3%	2	1	2	0	12
船橋市	168	10	6.0%	1	2	0	0	7
館山市	25	6	24.0%	0	1	0	1	4
木更津市	55	4	7.3%	0	1	1	1	1
松戸市	140	8	5.7%	1	0	2	0	5
野田市	53	5	9.4%	0	1	0	0	4
茂原市	33	2	6.1%	0	0	0	1	1
成田市	46	8	17.4%	1	1	1	0	5
佐倉市	60	8	13.3%	0	4	1	0	3
東金市	21	1	4.8%	0	0	0	0	1
旭市	30	2	6.7%	0	0	1	0	1
習志野市	42	6	14.3%	1	1	0	0	4
柏市	137	7	5.1%	1	1	1	0	4
勝浦市	6	1	16.7%	0	0	1	0	0
市原市	84	6	7.1%	0	0	2	1	3
流山市	38	2	5.3%	0	1	0	0	1
八千代市	64	7	10.9%	0	0	1	0	6
我孫子市	33	4	12.1%	0	1	0	0	3
鴨川市	13	1	7.7%	0	0	0	0	1
鎌ヶ谷市	32	1	3.1%	0	0	0	0	1
君津市	33	5	15.2%	0	3	0	1	1
富津市	21	6	28.6%	0	4	0	1	1
浦安市	38	6	15.8%	2	1	1	0	2
四街道市	27	3	11.1%	0	1	0	0	2
袖ヶ浦市	29	4	13.8%	0	0	0	0	4
八街市	25	1	4.0%	0	0	0	0	1
印西市	32	9	28.1%	1	3	0	0	5
白井市	19	2	10.5%	1	0	0	0	1
富里市	11	4	36.4%	0	1	0	0	3
南房総市	19	5	26.3%	0	1	1	1	2
匝瑳市	5	0	0.0%	0	0	0	0	0
香取市	39	5	12.8%	0	2	1	0	2
山武市	22	4	18.2%	0	0	0	0	4
いすみ市	15	4	26.7%	1	1	1	0	1
大網白里市	15	4	26.7%	0	4	0	0	0
酒々井町	6	0	0.0%	0	0	0	0	0
栄町	10	0	0.0%	0	0	0	0	0
神崎町	0	0		0	0	0	0	0
多古町	3	0	0.0%	0	0	0	0	0
東庄町	2	0	0.0%	0	0	0	0	0
九十九里町	9	3	33.3%	0	1	1	0	1
芝山町	1	1	100.0%	0	0	0	0	1
横芝光町	10	2	20.0%	0	0	0	1	1
一宮町	6	2	33.3%	0	1	1	0	0
睦沢町	3	0	0.0%	0	0	0	0	0
長生村	3	0	0.0%	0	0	0	0	0
白子町	7	2	28.6%	1	1	0	0	0
長柄町	3	1	33.3%	0	1	0	0	0
長南町	3	1	33.3%	0	0	0	0	1
大多喜町	5	1	20.0%	0	1	0	0	0
御宿町	2	0	0.0%	0	0	0	0	0
鋸南町	4	1	25.0%	0	0	0	0	1
千葉県	1969	208	10.6%	15	44	27	9	113

注 1) 住居地外自殺者とは、生前の住居地が発見市町村と異なる者をいう。ただし、生前の住居地が不詳の者を除く。

注 2) 令和 4 年に自殺統計原票が改正され、自殺の場所の選択肢が拡充された。

7 時間帯別自殺者数

令和元年から令和5年の5年間合計で千葉県において発見された自殺者4,921人の時間帯別自殺者数（時間帯不明・性別不明を除く）のうち、男性は「4～5時台」が319人と最も多く、次いで「6～7時台」が276人、「12～13時台」が248人の順であり、女性は「10～11時台」が168人と最も多く、次いで「14～15時台」が161人、「12～13時台」が149人の順であった（図8）。

年齢階級別（時間帯不明・年齢不明を除く）では、19歳以下、60～69歳、70～79歳を除き、最も多かったのは「4～5時台」だった。また、60～69歳、70～79歳で最も多かったのは「14～15時台」、「12～13時台」だった（表5）。

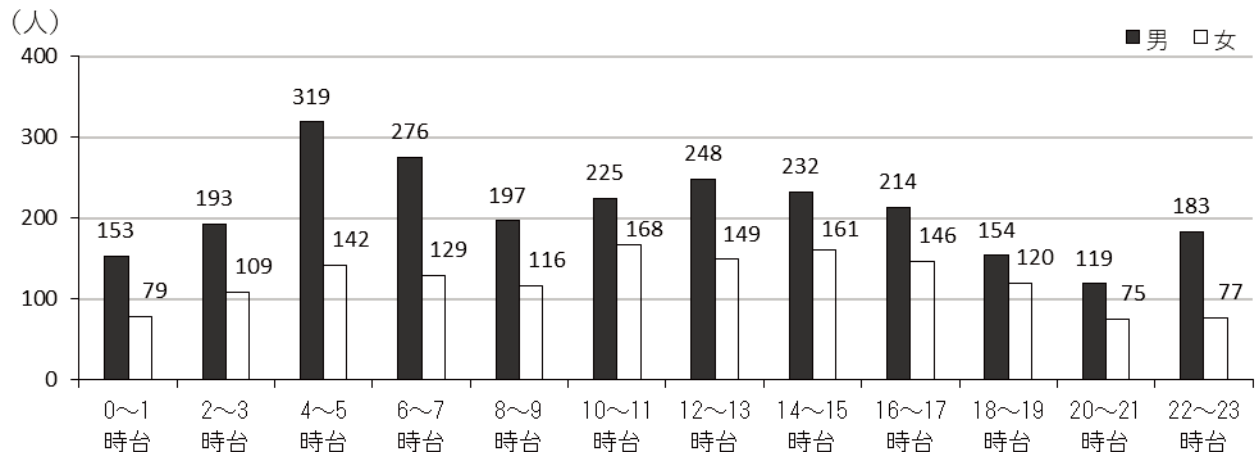


図8 時間帯別自殺者数の状況：令和元年～令和5年の5年間合計（千葉県）

出典：自殺統計原票データ

表5 時間帯別・年齢階級別自殺者数の状況：令和元年～令和5年の5年間合計（千葉県）

	0～1 時台	2～3 時台	4～5 時台	6～7 時台	8～9 時台	10～11 時台	12～13 時台	14～15 時台	16～17 時台	18～19 時台	20～21 時台	22～23 時台	計
19歳以下	8 4.8%	11 6.6%	18 10.8%	11 6.6%	12 7.2%	5 3.0%	18 10.8%	17 10.2%	20 12.0%	14 8.4%	17 10.2%	16 9.6%	167 100.0%
20～29歳	29 6.2%	45 9.7%	56 12.0%	39 8.4%	32 6.9%	43 9.2%	33 7.1%	37 8.0%	39 8.4%	40 8.6%	36 7.7%	36 7.7%	465 100.0%
30～39歳	31 6.5%	45 9.5%	61 12.8%	48 10.1%	32 6.7%	49 10.3%	37 7.8%	44 9.3%	41 8.6%	33 6.9%	19 4.0%	35 7.4%	475 100.0%
40～49歳	59 8.7%	51 7.5%	74 10.9%	63 9.3%	45 6.6%	57 8.4%	65 9.6%	64 9.4%	61 9.0%	50 7.4%	38 5.6%	53 7.8%	680 100.0%
50～59歳	38 5.4%	51 7.3%	83 11.8%	74 10.5%	51 7.3%	80 11.4%	69 9.8%	68 9.7%	68 9.7%	47 6.7%	29 4.1%	44 6.3%	702 100.0%
60～69歳	21 4.2%	32 6.4%	54 10.8%	54 10.8%	47 9.4%	43 8.6%	55 11.0%	58 11.6%	48 9.6%	37 7.4%	27 5.4%	26 5.2%	502 100.0%
70～79歳	22 3.8%	43 7.5%	62 10.8%	66 11.5%	59 10.3%	73 12.7%	78 13.6%	63 11.0%	47 8.2%	23 4.0%	16 2.8%	22 3.8%	574 100.0%
80歳以上	23 5.6%	24 5.8%	52 12.6%	50 12.1%	35 8.5%	43 10.4%	41 10.0%	41 10.0%	36 8.7%	27 6.6%	12 2.9%	28 6.8%	412 100.0%
計	231 5.8%	302 7.6%	460 11.6%	405 10.2%	313 7.9%	393 9.9%	396 10.0%	392 9.9%	360 9.1%	271 6.8%	194 4.9%	260 6.5%	3,977 100.0%

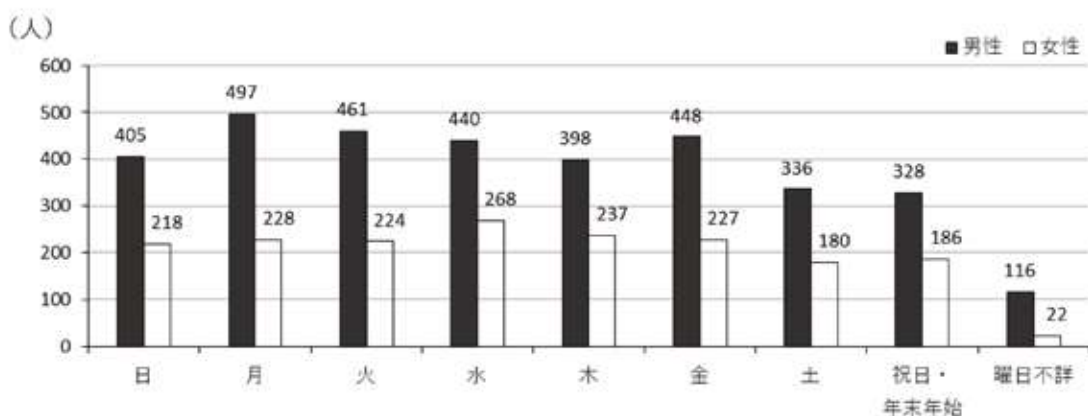
注1) 数値：上段は自殺者数、下段は構成割合

注2) 網掛けは年齢階級ごとの最も高い割合

出典：自殺統計原票データ

8 曜日別自殺者数

令和元年から令和5年の5年間合計で千葉県において発見された自殺者4,921人の曜日別自殺者数のうち、男性は「月曜日」が497人と最も多く、次いで「火曜日」が461人であった。女性は「水曜日」が268人と最も多く、次いで「木曜日」が237人であった（図9）。



注1)「祝日・年末年始」の人数は、平日の各曜日の年間日数が約50日に対し、祝日等の日数が21日であるため50日で換算した。

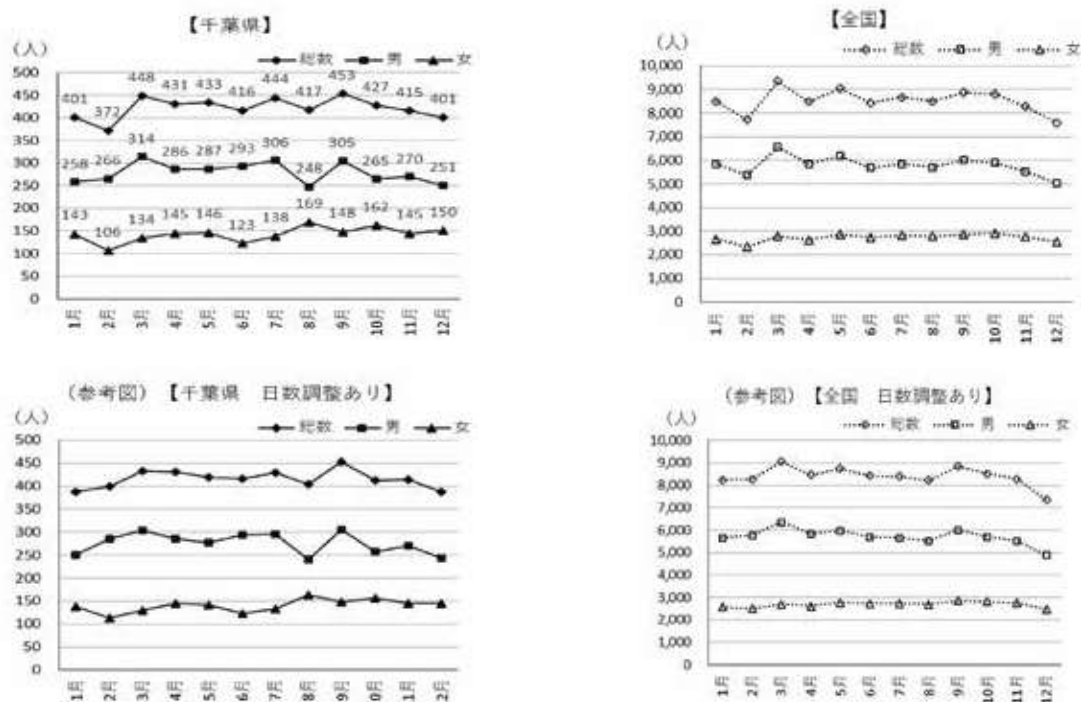
注2) 日曜日から土曜日が祝日等に当たる場合は、「祝日・年末年始」に計上した。

図9 曜日別自殺者数の状況：令和元年～令和5年の5年間合計（千葉県）

出典：自殺統計原票データ

9 月別自殺者数

令和元年から令和5年の5年間合計で千葉県及び全国の月別自殺者数は千葉県の男性が「3月」が314人と最も多く、次いで「7月」が306人だった。女性は「8月」が169人と最も多く、次いで「10月」が162人だった。全国の男性は「3月」が最も多く、女性は「10月」が最も多かった（図10）。（参照：IV統計表（資料編） 附表7）



注）千葉県及び全国の参考図は1か月の日数の影響を排除するため各月を30日換算した。

図10 月別自殺者数：令和元年～令和5年の5年間合計（千葉県・全国）

出典：人口動態調査

10 自殺との関連が考えられる事象の状況

(1) 完全失業率

平成 26 年から令和 5 年までの 10 年間の千葉県の生産年齢（15～64 歳）自殺死亡率と完全失業率との間の変化を見ると、令和 3 年以降から完全失業者率が低下または横ばいしているのに対し、生産年齢自殺死亡率が増加していた。また、全国も令和 3 年以降から完全失業者率が低下または横ばいしているのに対し、生産年齢自殺死亡率が増加していた（図 11）。（参照：IV統計表（資料編）附表 18）

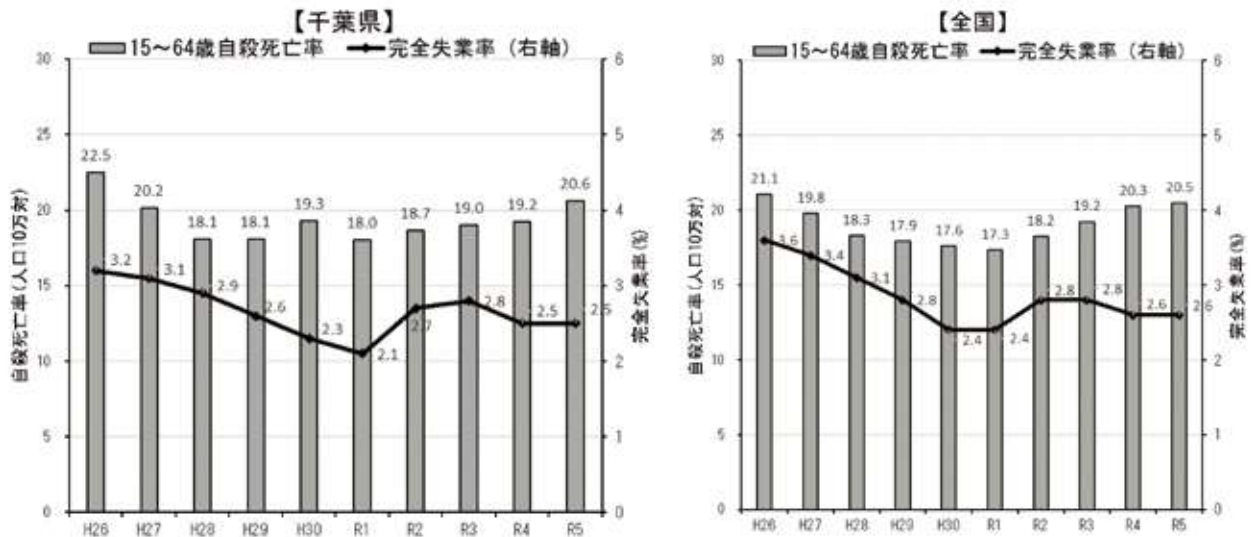


図 11 15～64 歳自殺死亡率と完全失業率の年次推移（千葉県・全国）

出典：人口動態調査、労働力調査、人口推計

(2) 交通事故死亡者数

平成 26 年から令和 5 年の千葉県の自殺者数は令和元年までは交通事故死亡者数の 4 倍台で推移していたが、令和 2 年は自殺者数が 1,050 人、交通事故死亡者数が 167 人で 6.3 倍、令和 3 年は自殺者数が 978 人、交通事故死亡者数が 168 人で 5.8 倍、令和 4 年は自殺者数が 1,021 人、交通事故死亡者数が 180 人で 5.7 倍、令和 5 年は自殺者数が 1,026 人、交通事故死亡者数が 166 人で 6.2 倍であった（図 12）

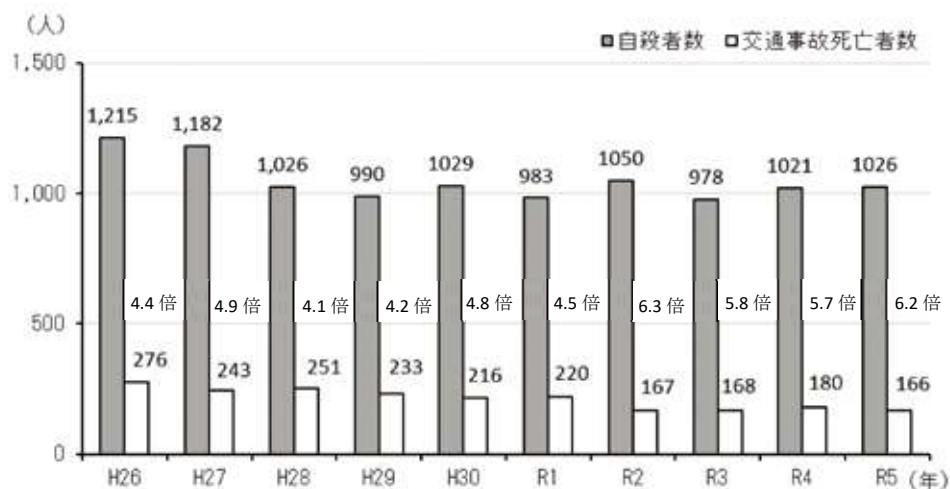


図 12 自殺者数と交通事故死亡者数の推移（千葉県）

出典：人口動態調査

1.1 児童・生徒における自殺の状況

(1) 内訳

令和元年から令和5年の5年間合計で千葉県において発見された自殺者のうち児童・生徒の自殺者は140人で、内訳は、「小学生」6人、「中学生」39人、「高校生」95人であった。

(2) 自殺死亡率

令和元年から令和5年の千葉県及び全国の児童・生徒の人口10万人当たりの自殺者数は令和3年の「小・中学生」を除き、全国より千葉県の方が多かった。また、千葉県の「小・中学生」及び「高校生」は令和元年から令和2年にかけて小・中学生が1.5から2.8、高校生が12.1から14.4に増加し、令和3年は小・中学生が1.5、高校生が12.0に減少後、令和4年は小・中学生が2.0、高校生が12.2に増加、令和5年は小・中学生が2.0と横ばい、高校生が16.1に増加した（図13）。

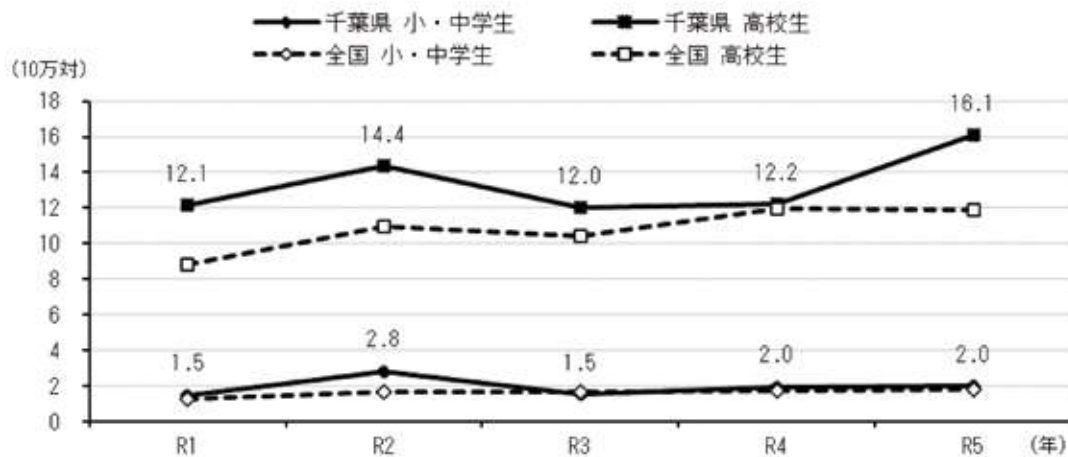


図13 児童・生徒の自殺死亡率の推移（千葉県・全国）

出典：自殺者数；千葉県 自殺統計原票データ 全国 自殺統計：地域における自殺の基礎資料
在籍者数；学校基本調査

(3) いじめの認知件数

令和元年度から令和5年度の各年度の千葉県の小中高校生の各1,000人当たりのいじめの認知件数は、令和5年度が小学生156.7と令和3年度以降増加し、中学生44.1及び高校生6.7と前年度と比べ増加した（図14）。

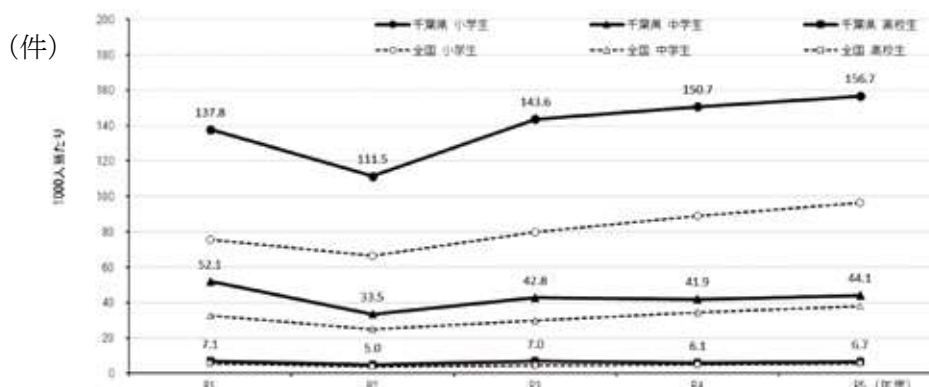


図14 いじめの認知件数の推移（千葉県・全国）

出典：いじめの認知件数；児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査
在籍者数；学校基本調査

(4) 不登校

令和元年度から令和5年度の各年度の千葉県の中高校生生の各1,000人当たりの不登校児童・生徒数は、令和2年度から令和5年度までの小学生、中学生、高校生の全てが増加した。全国との比較では中学生及び小学生は全国より少なく、高校生は令和2年度を除いて全国より多かった(図15)。

注) 不登校：年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童・生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者(ただし、病気や経済的理由による者を除く)

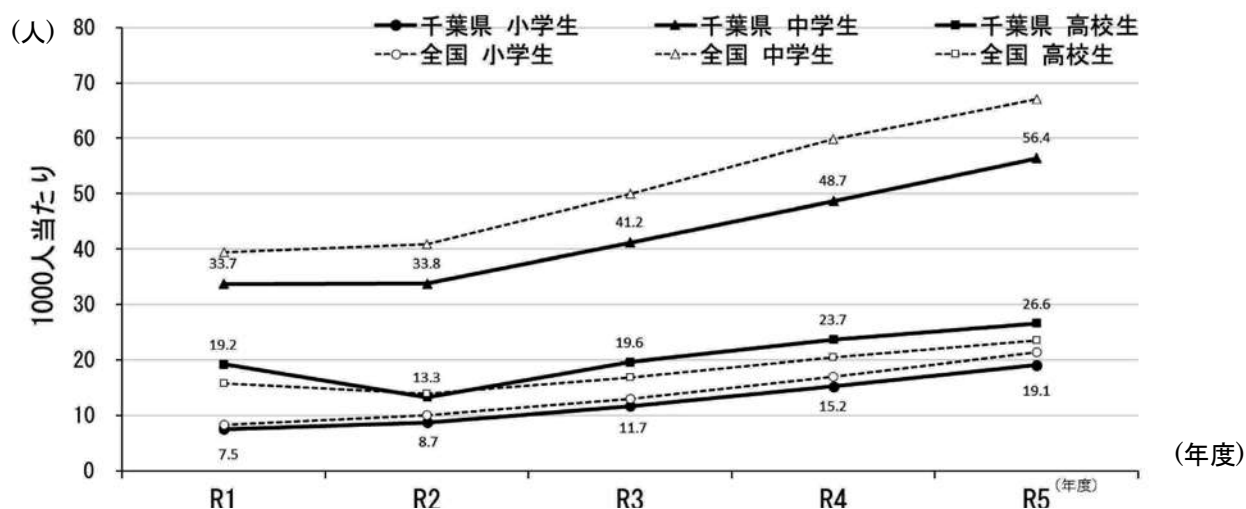


図15 不登校児童・生徒数の推移 (千葉県・全国)

出典：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

(5) 中途退学(高校生)

令和元年度から令和5年度の各年度の千葉県、近隣4都県及び全国の中途退学率(高校生)は全国及び千葉県を含む5都県とも、令和2年度から5年度は増加傾向だった。千葉県は5年間を通して、東京都、神奈川県、茨城県より低かったが、埼玉県よりは高かった(図16)。

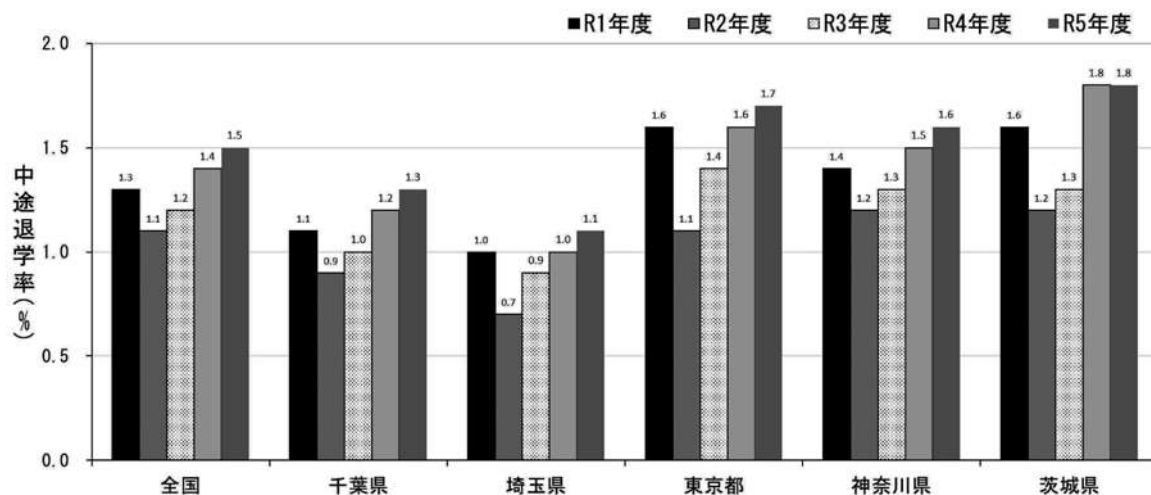


図16 中途退学率(高校生)の推移 (千葉県・近隣4都県・全国)

出典：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

(6) 児童相談所における児童虐待相談の対応件数

平成25年度から令和4年度の千葉県及び全国の児童相談所における児童虐待相談の対応件数はこの10年間で千葉県、全国とも増加傾向だった。令和3年度と令和4年度を比較すると、千葉県は11,870件から11,219件に減少しており、相談種別別では、「性的虐待」以外の全ての相談種別において減少が認められた。全国の対応件数は207,660件から214,843件に増加しており、「心理的虐待」の割合が最も多かった(図17)。

注1) ネグレクト：家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かないなど

注2) 心理的虐待：言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう(ドメスティック・バイオレンス：DV) など

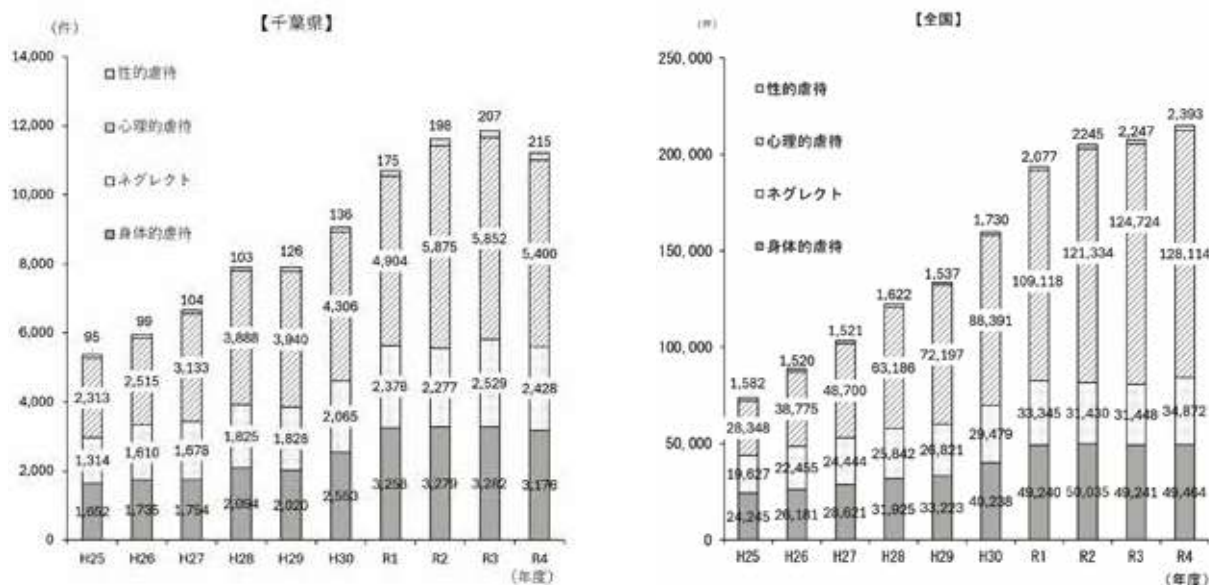
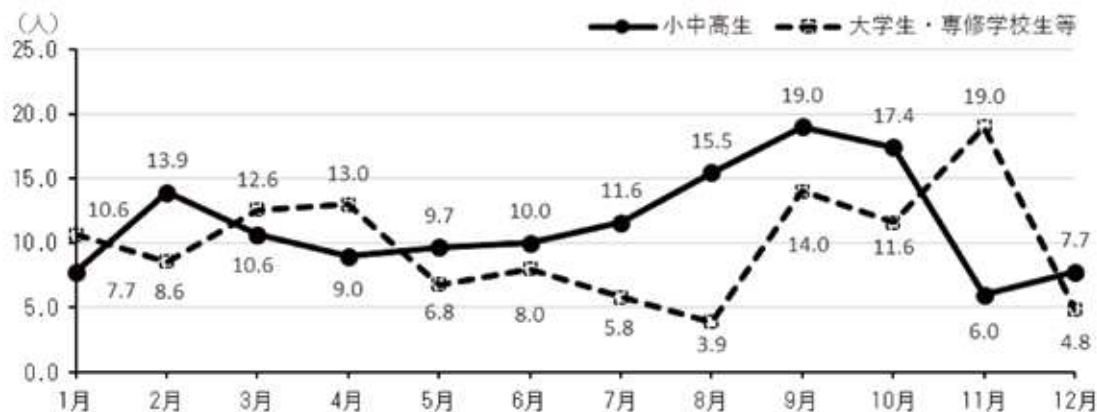


図17 児童相談所における児童虐待相談の対応件数（千葉県・全国）

出典：福祉行政報告例

(7) 月別自殺者数

令和元年から令和5年の5年間合計の千葉県の児童・生徒の月別自殺者数は、小中高生は9月に19.0人と最も多く、次いで10月が17.4人だった。大学生・専修学校生等は11月に19.0人と最も多く、次いで9月が14.0人だった(図18)。



注1) 月の日数差の影響を除くため、1か月を30日と計算して調整した。

図18 児童・生徒等の月別自殺者数：令和元年～令和5年の5年間合計（千葉県）

出典：自殺統計原票データ

1 2 自殺未遂の状況

(1) 自殺未遂歴の有無

令和元年から令和5年の5年間合計で千葉県において発見された自殺者4,921人のうち、自殺未遂歴のある者916人（男性423人、女性493人）の割合を年齢階級別にみると、自殺未遂歴「あり」の者は、男女とも30～39歳が最も高く、男性が18.3%、女性が42.9%であった。また、全ての年齢階級において女性の方が高かった（図19）。（参照：IV統計表（資料編） 附表17）

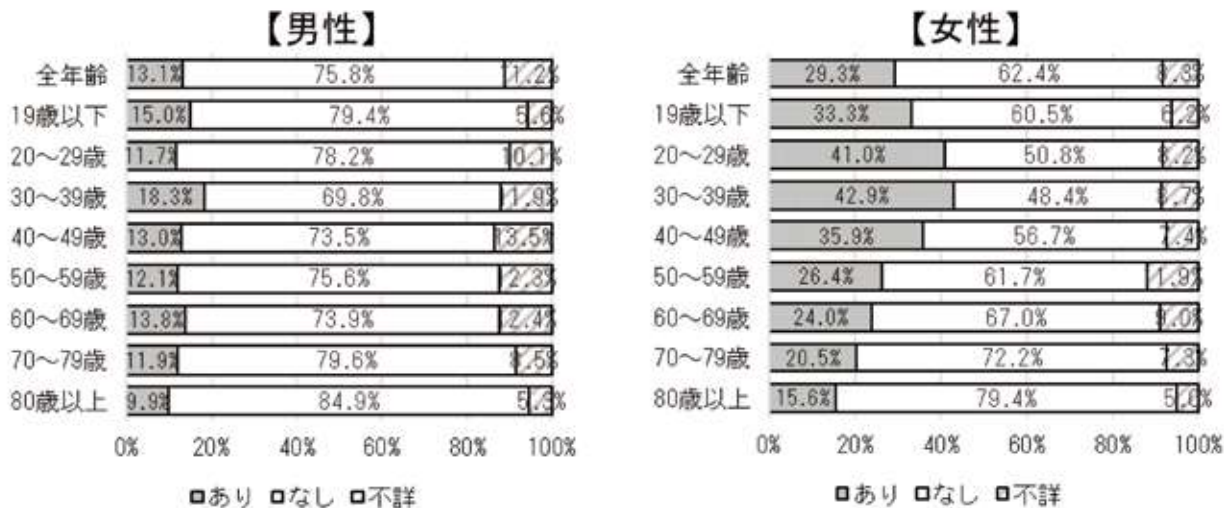


図19 自殺未遂歴の有無別自殺者数の割合：令和元年～令和5年の5年間合計（千葉県）

出典：自殺統計原票データ

(2) 救急出場件数及び搬送人員

平成30年から令和4年の各年の千葉県の自損行為による救急車の出場件数は、2,705～3,210件の間を推移した。また、令和4年は前年より増加した。

また、自損行為による救急搬送人員と自殺者数の関連では、令和3年は自損行為1,847件、自殺者978件、令和4年は自損行為1,987件、自殺者1,021件であった（表6）。（参照：IV統計表（資料編） 附表19、20）

表6 事故種別救急出場件数及び搬送人員 年次別推移（千葉県）

区分 年	出場件数					搬送人員					(参考) (人口・自殺者数統計)
	出場件数計	急病	交通事故	自損行為	その他	搬送人員計	急病	交通事故	自損行為	その他	
H30	331,042	211,266	23,760	2,778	93,238	293,809	190,848	23,353	1,822	77,786	1,029
R1	342,184	220,200	22,392	2,705	96,887	301,788	196,657	21,773	1,773	81,585	983
R2	305,253	197,252	18,490	2,738	86,773	266,219	173,749	17,622	1,778	73,070	1,050
R3	319,622	208,028	19,016	2,837	89,741	275,983	181,167	17,998	1,847	74,971	978
R4	382,346	262,237	19,761	3,210	97,138	314,247	212,428	18,206	1,987	81,626	1,021

出典：千葉県消防防災年報、人口動態調査

13 自殺に関連する相談の状況

(1) 精神保健に関する相談

令和4年度の電話相談件数は3,159件で、前年度より245件減少した。また、内容別にみると「自殺関連」の相談は254件で、前年度より50件減少した（表7）。

表7 精神保健福祉センターへの電話相談内容

年度	相談件数	相談内容				
		引きこもりの問題	自殺関連の問題	犯罪被害の問題	引きこもりの問題	その他
H30	4,707	139	H30	4,707	139	H30
R1	4,103	75	R1	4,103	75	R1
R2	3,142	66	R2	3,142	66	R2
R3	3,404	62	R3	3,404	62	R3
R4	3,159	70	R4	3,159	70	R4

出典：千葉県精神保健福祉センター年報

(2) 「千葉いのちの電話」への電話相談

令和5年4月から令和6年3月の1年間の電話相談件数は18,481件で、そのうち自殺傾向は1,853件で見られた（図20）。

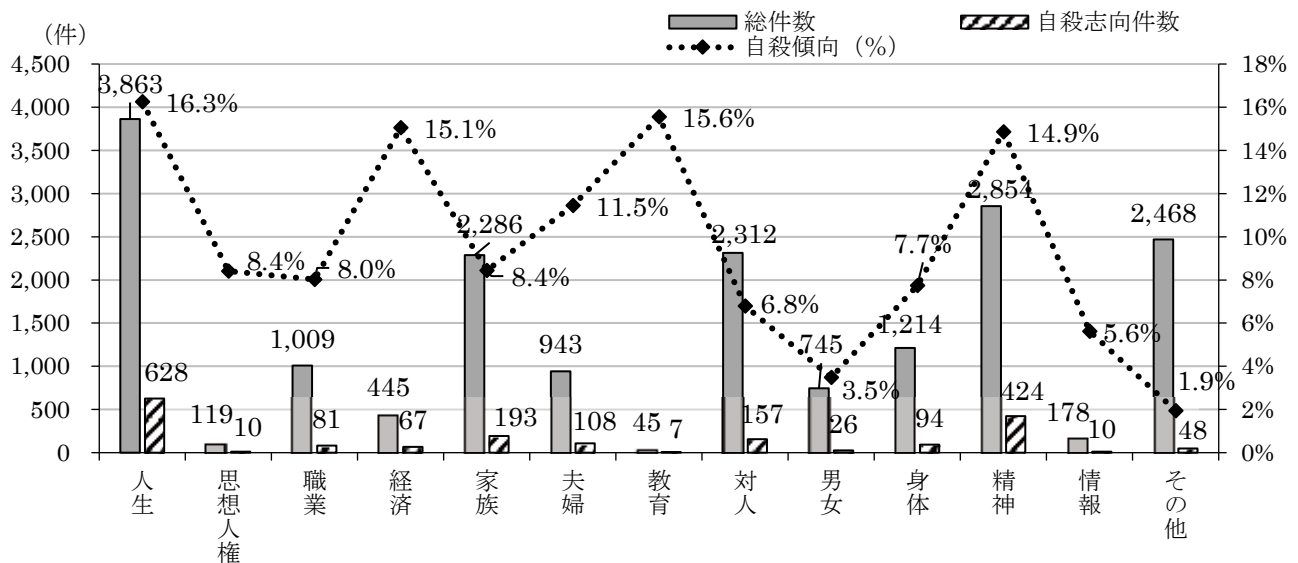


図20 千葉いのちの電話への電話相談内容別相談件数と自殺志向の割合：令和5年度

出典：社会福祉法人千葉いのちの電話 令和5年度事業報告

【参考】原因・動機の小分類一覧

1 令和4年以降の原票

家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他
夫婦関係の不和 (DV)	病気の悩み (悪性新生物)	事業不振	職場の人間関係 (上司とのトラブル)	失恋	学業不振	犯罪発覚等
夫婦関係の不和 (不倫・浮気)	病気の悩み (てんかん)	倒産	職場の人間関係 (その他)	不倫・浮気	入試に関する悩み (入試以外)	孤独感
夫婦関係の不和 (その他の原因)	病気の悩み (その他の身体疾患)	失業	職場環境の変化 (役割・地位の変化等)	結婚に 関する悩み	進路に関する悩み (入試以外)	犯罪被害
親子関係の不和	病気の悩み・影響 (うつ病)	就職失敗	職場環境の変化 (その他)	交際相手 からの暴力 (DV)	いじめ	SNS・ インターネット上 のトラブル
その他の 家族関係の不和	病気の悩み・影響 (統合失調症)	生活苦	仕事疲れ (長時間労働)	ストーカー 行為等	学友との不和 (いじめ以外)	性的少数者である ことの 悩み・被差別
家族の死亡	病気の悩み・影響 (アルコール依存症)	負債 (多重債務)	仕事疲れ (その他)	その他	教師との人間関係	近隣との関係
家族の将来悲観	病気の悩み・影響 (薬物乱用)	負債 (連帯保証債務)	解雇・雇止め		性別による差別	後追い自殺
介護・看病疲れ	病気の悩み・影響 (摂食障害)	負債 (ギャンブル等)	取引先等とのトラブル		その他	その他の者 (家族、同居人、 交際相手以外) からの 虐待・暴力被害
子育ての悩み	病気の悩み・影響 (その他の精神疾患)	負債 (その他)	仕事の失敗			その他
家族からの しつけ・叱責	身体障害の悩み	借金の取立て苦	過重なノルマ・ノルマの 不達成			
家族・同居人からの 身体的虐待	認知機能低下の悩み	奨学金の返済苦	性別による差別			
家族・同居人からの 心理的虐待	その他	自殺による 保険金支給	その他			
家族・同居人からの 性的虐待		その他				
家族・同居人からの ネグレクト						
その他						

(厚生労働省「令和5年版 自殺対策白書」86ページから改編)

2 令和3年以前の原票

家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳
親子関係の不和	病気の悩み (身体の病気)	倒産	仕事の失敗	結婚をめぐる悩み	入試に 関する悩み	犯罪発 覚等	不詳
夫婦関係の不和	病気の悩み・影響 (うつ病)	事業不振	職場の 人間関係	失恋	その他進路に 関する悩み	犯罪被 害	
その他 家族関係の不和	病気の悩み・影響 (統合失調症)	失業	職場環境の 変化	不倫の悩み	学業不振	後追い	
家族の死亡	病気の悩み・影響 (アルコール依存症)	就職失敗	仕事疲れ	その他交際をめぐ る悩み	教師との 人間関係	孤独感	
家族の将来悲観	病気の悩み・影響 (薬物乱用)	生活苦	その他	その他	いじめ	近隣関 係	
家族からの しつけ・叱責	病気の悩み・影響 (その他の精神疾患)	負債 (多重債務)			その他 学友との不和	その他	
子育ての悩み	身体障害の 悩み	負債 (連帯保証債務)			その他		
被虐待	その他	負債 (その他)					
介護・看病疲れ		借金の 取り立て苦					
その他		自殺による 保険金支給					
		その他					

(厚生労働省「令和4年版 自殺対策白書」98ページから改編)